# 世界遺産管理に係る主な取組状況

# 令和4年6月現在

小笠原諸島 世界自然遺産地域 管理機関

# 2-1 森林生態系修復保全・修復等事業 実施概要 事業対象地(母島列島) No.23 No.24 No.32 No.32 No.32 no.32 no.32 no.32 no.32 no.32 no.32

# <u>2-1 森林生態系修復保全·修復等事業</u>実施概要

(林)

今回更新

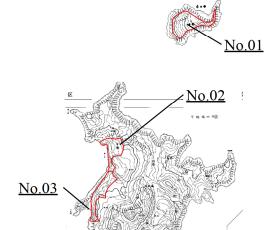
No.12

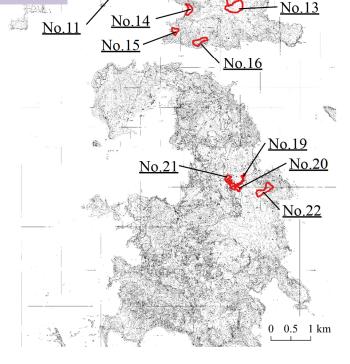
# 〈事業概要〉

固有動植物及びそれらの生息・生育環境の保全を目的に

- 外来植物対策(薬剤駆除、抜取り駆除、伐採駆除等)
- 移植及び播種
- ・駆除後の評価を目的とした各分類群のモニタリング
- ・薬剤の残留濃度分析 実施 その他、指定ルートモニタリング、気候変動モニタリング等を実施

# 事業対象地(父島列島)





No.09

# 2-1 森林生態系修復保全・修復等事業

【薬剤噴霧試験】

立神山

Bライン

今回更新(林)

### 참 몸

- ▶ 近年、兄島では外来草本類及び低木類の侵入・拡大が顕著である
- ▶ 外来草本類及び低木類は駆除にかかるコストと労力が大きく、省力化が望まれる
- ▶ 薬剤噴霧試験を実施し、駆除効果(従来手法と薬剤噴霧を比較)と周辺への影響をモニタリングすることとした
  - ※従来手法:薬剤注入や伐採塗布、抜取りによる駆除

# 現状

- ▶ 昨年度事業において、試験前に事前モニタリング調査を実施
- モニタリング項目:植生、陸産貝類、土壌動物、定点撮影、(工程調査、薬剤成分は事後から)
- ▶ 兄島立神山における陸産貝類調査でマルクボエンザガイが確認されたため、 千葉委員へご相談の上、作業方針(下記)を決定
- ▶ 薬剤噴霧を実施

兄島立神山:2022年1月

兄島Bライン: 2021年12月

▶ 事後モニタリングを実施中 (現在)

### 

※Bラインは岩盤が露出した裸地であり、調査できない項目がある

# 【兄島立神山における駆除試験の作業方針】

- ・陸産貝類はリターの下に生息しており、リターを剥ぎ取ることが生息地の大きな攪乱になりうるため、プロット内や周辺におけるシチヘンゲの駆除の際は、リターを剥いだり地面を掘ったりしないように注意する。駆除はカット塗布や薬注が望ましい。
- ・オガサワラビロウの葉は陸産貝類にとって特に重要な生息地になっているため、現地を通行する際はオガサワラビロウの葉を踏まないよっ作業を行う。
- ・駆除の際に伐採した材は引きずって移動しないよう、短尺状に伐り、持ち上げて運ぶ。

# 今後の検討と課題

- ▶ 現状、噴霧実施から5~6カ月しか経過しておらず、今後もモニタリングを継続していく予定
- 駆除対象としたシチヘンゲは従来手法、薬剤噴霧ともに萌芽再生がみられており、今後も定期的に駆除を行う
- ▶ モニタリングにより、駆除効果と周辺への影響が生じないことが確認され次第、薬剤噴霧を手法の一つとして外来植物駆除に組み込みたい

(林)

植生

⇒ ブラウンーブランケ法により種ごとの被度群度と階層構造を把握

今回更新

### 【立神山】

- 駆除を実施したシチヘンゲは一部で萌芽再生がみられる。従来手法に比べて薬剤噴霧の方が再生量が少ない印象
- ▶ 上層のシチヘンゲが消失したことで、下層に新たな外来草本が侵入する様子が確認された
- ▶ 選択的に噴霧を実施した結果、在来植物に大きな変化はみられておらず、周辺植生への影響は今のところ確認できない。一部、薬剤がかかったタマシダの被度が減少した
- ▶ 現在のところ、従来手法と薬剤噴霧では、周辺植生への大きな影響は確認されておらず、対象種を枯殺するという観点から考えると、薬剤噴霧の方がやや効果があると考えられる

### 【Bライン】

- 薬剤噴霧プロットではアイダガヤの被度が変化しておらず、現状では本種に対する薬剤噴霧による駆除効果は確認できなかった。一方で、抜取りプロットにおいても被度が確認されている
- ▶ 抜取りプロットでは、アイダガヤ全個体の駆除を実施した。本プロットにおけるアイダガヤ再確認の原因として、① 抜取り時に残存したわずかな根からの再生、②周辺からの再侵入、が考えられる
- ▶ 選択的に噴霧を実施した結果、在来植物に大きな変化はみられておらず、周辺植生への影響は今のところ確認できない

# 陸産貝類 > プロット内の任意の地点で50cm四方の調査区を4箇所設定し、確認された陸産貝類の個体数を記録

# 【立神山】

- ▶ 種ごと、プロットごとに個体数の変動が大きく、駆除手法による陸産貝類への影響はわからない(駆除を実施していない参考箇所の変動も大きい)
- ▶ 一方で、出現種数については駆除手法によって大きな変化はみられなかった(逆に駆除を実施していない参考箇所で大きく減少した)
- ▶ 薬剤噴霧は希少なマルクボエンザガイの生息が確認されなかったプロットで実施したが、事後の確認では噴霧を 実施したプロットで本種が確認された
- 土壌動物及び土壌成分調査の事後調査は今後実施予定

# 2-1 森林生態系修復保全·修復等事業 【<sup>薬剤噴霧試験</sup>】

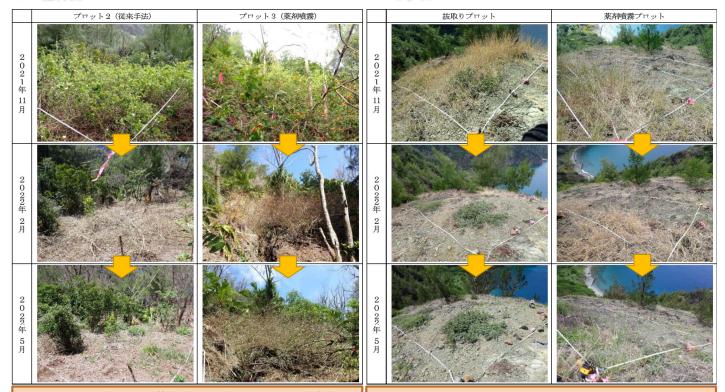
(林)

今回更新

# 定点撮影

# ▶ 立神山

# Bライン



- ・駆除により従来手法、薬剤噴霧ともにシチヘンゲが衰退
- ・在来植生はどちらも残存している

・抜取りではアイダガヤの被度が減少、薬剤噴霧は効果が薄い印象(冬季の噴霧が原因か)

今回更新

目 的

関係機関と連携して小笠原固有の在来林の回復を進めるために、主に都有地において、 外来植物駆除等の対策を実施する

### 取組内容

# 外来植物駆除作業

- 父島及び弟島の都有地において外来植物駆除 作業を実施(右図:対象地)
- 父島 鳥山において、新規外来植物駆除作業を 実施
- 薬剤を用いたタケ・ササ類駆除の試験運用

# 外来植物対策調査

- 既駆除都有地の植物回復状況等を調査
- 植栽在来植物の生育状況を調査(父島)

# 父島海岸線歩道の景観伐採

- ジョンビーチ~高山分岐点(JB側)の外来植 物駆除作業
- 高山分岐点 (JB側) ~高山分岐 (小港側) の 駆除対象木の事前調査

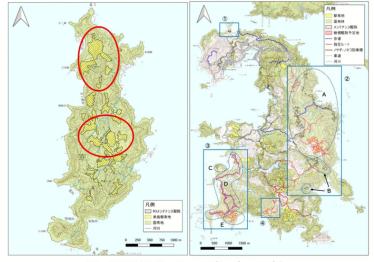


図. 駆除対象地(左:弟島、右:父島) (弟島は都有地のメンテナンス駆除、父島は赤色の範囲を新規またはメンテナンス駆除)

# これまでの取組

H23 $\sim$ 父島、弟島等において外来植物駆除を開始 H28

父島列島の駆除計画を策定 (H29~R3)

H31 弟島都有地の新規駆除終了  $\rm R2 \sim$ 父島東平周辺の外来植物駆除に着手

過年度駆除地のメンテナンス駆除継続

R3 父島列島外来植物駆除計画を策定(R4~R8)

# 薬剤を用いたタケ・ササ類駆除の試験運用

(都)

今回追加

# 背景

- ・外来タケ・ササ類の侵入・拡大により、在来植生への回復が阻害
- ・刈払駆除により、一時的な成長抑制ができている例もあるが、小笠原での完全駆除達成事例はない

# 取組内容(案)

# ●薬剤を使用したタケ・ササ類駆除の試験運用(父島・弟島)

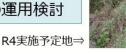
実施項目	実施内容	確認したい効果
太径タケ・ササ類の 薬剤注入駆除	径の太い個体には稈に孔を開けて、薬剤を 注入する薬剤注入駆除試験を実施	<ul><li>地下茎で繋がっているタケ・ササ類の連 鎖的枯死状況</li><li>駆除後の枯死率及び再生率</li></ul>
細径タケ・ササ類の 薬剤散布駆除	薬剤注入ができない細径のタケ・ササ類で は、一度地上部を刈取り、 再生した時点で薬剤散布を実施	<ul><li>・ 刈取り後からの散布タイミング</li><li>・ 駆除後の枯死率及び再生率</li></ul>

薬剤(想定): ラウンドアップマックスロード(グリホサート),フレノック(テトラピオン),クロレートS(塩素酸ナトリウム)

# ● 環境影響モニタリング

薬剤を使用した駆除による影響を捉えるために、生物等のモニタリングをセットで実施 (植生、土壌動物生息状況、陸産貝類生息状況、土壌の残留濃度分析 等)

父島で試験実施し、 駆除効果と環境影響を 評価した上で、 智島列島での運用検討



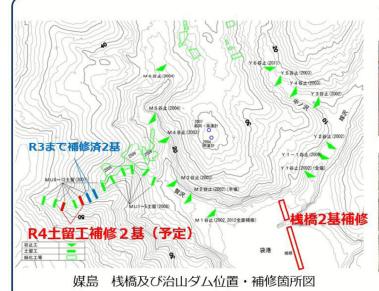






今回追加

# 取組内容



R4補修予定 土留工2基 ・R3までの補修実績 土留工2基



地般表出状况



治山ダム(土留工)



(参考) 桟橋の損傷状況 (R4.4月台風により損傷)

# 本取組の目的

媒島では、平成30年度にネズミ の全島駆除を行い、今後植生の回 復が期待される。治山ダムを補修 して土砂の移動を抑制し、植生の 回復を促進する。

# これまでの経緯

植生回復事業開始 H<sub>6</sub> ノヤギ排除完了 H11 H15 谷止工12基設置 H20 土留工13基設置

H30 ネズミ駆除開始 土留工1基補修 R2

R3 土留工1基補修

# 課題・今後の対応

土砂の発生源であ る斜面の緑化を進 めるため、斜面台 帳を基に対策方針 について整理する。

# 媒島屏風山における植生回復事業

(都) 今回追加

# 取組内容

# R4実施項目概要(予定)

# 自然環境調査

- · 空中写真撮影
- · 気象観測調査
- ・海底環境調査
- · 定点写真観察調査
- ・植生調査
- ・昆虫類調査
- · 陸產貝類調查
- ・甲殻類調査

ネズミ類対策調査 外来植物対策調査 植生管理実施計画作成

# †ビアナカタマイマ~ (屏風山のみに生息) 媒島全体図 屏風山の外来タケササ類分布図(2019)



屏風山上部の在来林に迫るタケササ類(2022.5)

林床に侵入するホテイチク

# 本取組の目的

ノヤギ、ネズミ、外来植物 駆除等の成果を調査し、元 の生態系の回復を目指す。

# これまでの経緯

ネズミ駆除前後の変化を多角的 にモニタリングするため、近年 は多項目を集中的に実施。

# 課題・今後の対応

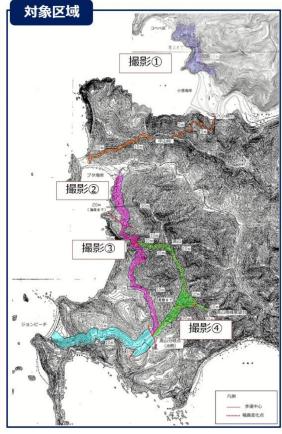
媒島屏風山管理方針に基づき、 植生管理実施計画を作成し、 目指すべき方向性を確立する。

今回追加

目的

父島海岸線歩道からの眺望確保を目的とした外来植物の景観伐採を実施する





# 実施スケジュール

対象区域	対象区域	面積	事前調査	駆除	備考
ジョンビーチ ~高山分岐点(JB側)	水色	5.8ha (57,984㎡)	令和3年度	令和4年度	
高山分岐点 (JB側) ~高山分岐点 (小港側)	緑色	3.9ha (38,633㎡)	令和4年度	令和5年度	
高山分岐点 (JB側) 〜ブタ海岸	桃色	5.2ha (51,669㎡)	令和5年度	令和6年度	
ブタ海岸 〜小港ロータリー	橙色	1.7ha (16,777㎡)	令和6年度	令和7年度	ブタ海岸、饅頭岬含む
小港海岸 〜コペペ浜	青色	3.0ha (30,165㎡)	令和7年度	令和8年度	小港園地、コペペ浜含む

# 2-4 希少植物の保全

(環・林)

# 【経緯】

- 2018年度の検討会において、保護増殖事業対象種12種の第2次小笠原希少野生植物種保護 増殖事業中期実施計画(2019-2023)を策定。
- ・課題解決の困難度に応じて種をAからCに分類し、種ごとの課題に応じた順応的な保全対策を展開。
- 2021年度の検討会において、Aグループのエンドポイントを策定。 (具体的な対策)

モニタリング、外来動物等の食害対策、各種環境ストレスの除去、増殖試験、播種・植栽など

	Γ	自然状態で安定的に存続できる状態」 になるまでの課題解決の困難度	該当種
Α	短中期	現在の取組みの継続により、目標に到達する ことが可能と考えられる種	ヒメタニワタリ、シマカコソウ、ウラジロコム ラサキ、ムニンノボタン、コヘラナレン
В	情報不足	有している課題が、短中期的に対応可能なも のかどうかが不明な種	アサヒエビネ、コバトベラ、タイヨウフウトウ カズラ、ウチダシクロキ
С	長期	短期的には解決が困難な課題を有し、長期的 な対応が必要と考えられる種	シマホザキラン、ムニンツツジ、ホシツルラン





ムニンツツジの新規個体

ウラジロコムラサキの実生

# 【2021年度のトピック】

- 今年度の検討会では、エンドポイント等を踏まえて中期実施計画の達成状況について中間評価を行った。
- ムニンノボタン等の一部の種については、2023年度までにエンドポイントを達成できる見込みとなっている。
- ・昨年度にかけて冬期の降水量が多かったことも影響してか、2021年10月ムニンツツジ3個体の新規個体、2022年1月ウチダシクロキ1個体の実生が確認された他、父島のウラジロコムラサキでも発生実生の定着が確認された。
- 2020年に島内で一時的に養生を実施していたホシツルラン自生株の状態が悪化し、2021 年10月に枯死した。

今回更新

目的

弟島の都有地におけるノヤギ排除後の在来植生回復のために、湿性高木林の主要木本類の一つである固有植物のオガサワラグワを対象として、基礎情報の収集や生息域内の保全に取り組む

# 取組内容

■ オガサワラグワ植栽地のモニタリング (藍ノ沢北、一ノ谷) 過年度に試験地に植栽した苗の生育状況を調査 (50株程度)

■オガサワラグワ播種育成

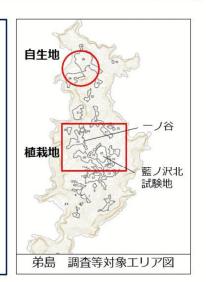
広根山周辺の成木から果実を採取し、弟島島内の試験地において苗を育成

■オガサワラグワの新規植栽

試験地において育成したオガグワの苗を弟島の都有地に新規植栽 R4年度は、100株程度の新規植栽を予定 ※ただし、苗の生育状況による

■広根山周辺の自生株のモニタリング

国有林地、都有地に生育する稚樹の生育状況、成木の開花結実状況の モニタリングを実施





播種から3ヵ月後の苗 (2022.4)



過年度植栽時の苗 (播種から約9ヵ月後)



植栽の様子 (2022.1 一ノ谷)



植栽試験の様子 植栽から2年で1m程度まで成長した個体

# 2-4 弟島におけるオガサワラグワ自生個体群の状況

(都)

今回更新

# 生育状況

- ・令和3年度に新規稚樹を264本確認
- ・過年度に発見した稚樹のうちフ本が開花し、成木に昇格
- ・成木の開花、結実状況が良好



稚樹調査の様子



開花により成木に昇格 (No.574)

# 

オガサワラグワ稚樹確認数の推移 ※開花が確認された個体を成木と定義

### <u>現場環境</u>

- ・2019年10月の大型台風通過による光環境が変化(明るくなった)
- ・台風による林冠ギャップ(林床に光が届く状態)が継続している
- ・光環境の改善と2019、2020年の良好な降雨により、埋土種子の発芽、成長が促されている可能性が考えられる

# 課題と対策

- ・ネズミによる食害を確認(成木・稚樹ともに)
  - → 稚樹にネズミ食害防止用の<u>保護ネット(トリカルネット)を設置</u> (R3実施) ネズミ駆除のためベイトステーションを自生地周辺に設置 (R3実施)

※林野庁保全センターが殺鼠剤の充填(月1回程度)を継続実施

・自生地周辺でシマグワの稚樹の生育を複数確認 →見つけ次第、駆除



保護ネット設置作業中の様子

# 取組内容

# 今回更新

父島におけるこれまでの	ノヤギ排除実績
-------------	---------

	父島					
排除手法	追い込み	わな	誘引	銃器	その他	計
H22年度	20			82		102
H23年度	172	26	10	209		417
H24年度		37	4	298		339
H25年度		35		305		340
H26年度		119		228	1	348
H27年度		98		146		244
H28年度		39		63		102
H29年度		74		18	1	93
H30年度		56		87	5	148
H31年度		58		229		287
R2年度		38		218	7	263
R3年度		62		354	1	417
合計	192	642	14	2237	15	3100

令和3年度捕獲実績 (都) 417頭(銃354、罠62、その他1) 令和4年度捕獲実績 (都) 76頭(銃52、罠24) (5月末現在)

# 令和4年度ノヤギ排除作業概要

- ・ 5月~2月の間、銃器作業を実施予定 (※5月、2月はオガサワラノスリの繁殖地外のみで実施)
- ・父島南部の高密度エリアと併せて北部でも罠による 排除作業を実施
- ・排除圧を高めるため、罠を125基程度増設予定
- ・GPS発信機による生態調査やユダゴートとしての活用 方法についても実施予定







駆除前(平成9年4月)

ノヤギ排除後の自然環境の変化(媒島)

根絶9年後(平成20年9月)

# 本取組の目的

罠及び銃器作業によるノヤギ排除 を実施し、父島の固有植生を中心 とした生態系の保全と健全な植生 回復の実現を目指す。

# これまでの経緯

H11 媒島 排除完了 H13 嫁島 排除完了

H15 聟島・西島 排除完了

H19 兄島 排除完了

H22 弟島 排除完了

H22~ 父島 排除作業継続中

# 課題・今後の対応

駆除圧を緩めるこ となく、ノヤギ根 絶に向けて計画的 に排除を実施する。

# 2-6 聟島列島のネズミ類対策

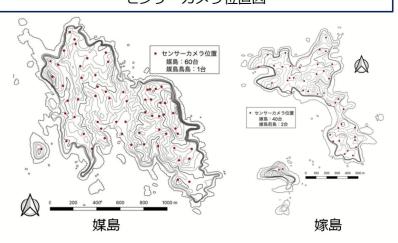
(都)

今回更新

# 取組内容

### H30~31年度ネズミ駆除実施概要 媒島 嫁島 H30.9(夏) R1.7(夏) 実施時期 H31.2 (冬) R1.9 (秋) 手撒き + ベイトステーション 殺鼠剤散布方法 (離岩礁・急傾斜地はドローン散布) 殺鼠剤の使用量 計約8.7 t 計約4.3 t 20kg/ha(夏) 40kg/ha(夏) 殺鼠剤の散布密度 40kg/ha(冬) 20kg/ha(秋) センサーカメラ 61台 42台 (モニタリング用)

# センサーカメラ位置図



⇒ 媒島・嫁島の散布が完了し、BSによる駆除圧をかけながらモニタリングを継続している。 殺鼠剤散布完了から令和4年3月末現在に至るまで、ネズミは検出されていない。

# 本取組の目的

・在来植生を中心とし た生態系の保全、回復

海鳥類繁殖地の保全

# これまでの経緯

H31 嫁島

R3 媒島

H11 媒島 ノヤギ排除完了 H12 媒島 植生復元事業開始 H13 <mark>嫁島</mark> ノヤギ排除完了 H15 智島 ノヤギ排除完了 H22 智島 ネズミ駆除完了 (環境省) H30 媒島 ネズミ駆除開始

ネズミ駆除開始

ネズミ駆除完了

# 課題・今後の対応

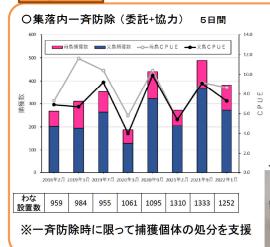
・嫁島は令和4年10月を目途にセンサーカメラによるネズミの生息状況モニタリングを行い、ネズミが確認されなければ駆除完了とする。

・ネズミ再確認時の駆除対応策等につい ては、別途検討会で検討し、対応する。

# 本取組の目的

生態系保全事業との関連による増減が想定される外来ネズミ類の対策について、生態系に限らず生活や農業を守るための対策を関係行政機関と連携して実施する。

# 進捗状況

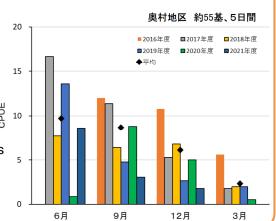


〇自主防衛の支援

- ・村民へのカゴわな・BS 無料貸し出し
- ・農業者への殺鼠剤 等購入補助



个殺鼠剤とBS



○ネズミ類の年・季節変動の把握

# これまでの経緯

- ◆H23年度~:農業者への殺鼠剤購入補助開始
- ◆H28年度~:カゴ罠貸出開始、集落内一斉防除試験開始
- ◆H29年度~: 農地でのベイトステーション(BS)試験設置、集落内一斉
  - 防除本開始
- ◆R3年度~:農地での対策支援及び非標的種への影響軽減を目的に、

BS貸し出し開始

# 課題・今後の対応

- ◆生活、農業被害の情報収集の 継続
- ◆一斉防除等の実績を数年間 積み重ね、その効果を検証する

父島

南島

鳥山

强崎

巽島

◆集落に隣接する林縁部での 防除強化を検討

# 2-7 陸産貝類の保全状況(父島)~ウズムシ防除対策、個体群再生~ (環)

■鳥山地域

■巽崎地域

# ニューギニアヤリガタリクウズムシ

1990年頃に父島北部で確認。その後、 父島島内で分布を拡大、陸産貝類へ壊滅的な影響

# 1

# 主な対策

2010年 域外保全の開始

2014年 屋外飼育施設での飼育試験開始

2015年 鳥山地域に侵入防止柵・エリア防除柵を

設置

2016年 鳥山地域に逸出防止柵の設置

エリア防除柵内への緊急避難の開始

2017年 エリア防除柵内でのウズムシの検出により

緊急避難の中止

西島への保全的導入の検討

2018年 個体群再生の検討

(巽島への補強、南島への再導入)

ウズムシ防除技術開発に向けた基礎研究の

推進

2019年 個体群再生計画の立案、外部評価

# ○チチジマカタマイマイ 父島巽崎と巽島でしか

2016年8月に鳥山中央部でウズム

シの侵入が確認されて以降、陸産

貝類への急激な影響が見られ、 2019年以降は壊滅的な状況。

-2017年10月に半島中央部でウズ

ムシの侵入が確認され、現在ヤマ

・2021年現在、先端部ではウズムシ

が確認されておらず、チチジマカタ

父島巽崎と巽島でしか生息が確認されていない。

○アナカタマイマイ

キサゴ類が壊滅的状況。

マイマイ等が残存している。

異島と母島北端部で生息が確認されているが、母島 北端部は遺伝的な差異があり、進化的な価値を有す。



本来の生息地から個体が消失していくことは、種の絶滅に極めて近い状態で、遺産価値を損なうおそれがある。



**異島の個体群を安定させるため、両種を移殖**する。また、 かつて**両種が生息していた南島に移殖し、個体群を再生** し、両種の<u>種としての絶滅を回避することを目指す</u>。



- ・個体群再生計画の策定
- ・移殖実施計画の策定、実施(巽島への補強を開始)

# 2-7 陸産貝類の保全状況(小笠原、内地)~生息域外保全~ (環)

生息域外保全として、世界遺産センター保護増殖室、扇浦屋外飼育施設、東京動物園協会(都内4園)で飼育。

### 【世界遺産センター保護増殖室】

- ・カタマイマイ属(父島、兄島産6種14個体群、総数約5,500個体)を 飼育中
- ・全ての種で累代飼育に成功
- ・飼育スペースが上限に達しており、一部の種で繁殖制限を実施

# 【扇浦屋外飼育施設】

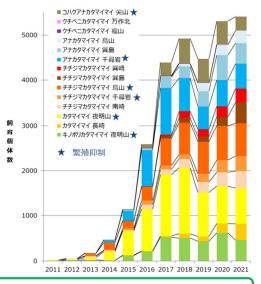
- ・繁殖状況に応じて種ごとの飼育施設を再編
- ・屋外飼育施設の個体を遺産センターへ導入すること を検討中
- 屋外飼育施設の追加設置を検討中











世界遺産センターでの飼育個体数推移

飼育技術確立のため、以下の種の試験飼育を実施中。

【母島】: オガサワラオカモノアラガイ

昨年度、累代飼育に初めて成功

キビオカチグサ近縁種1種の試験を開始

【内地】: オガサワラヤマキサゴ属2種、

母島産カタマイマイ属7種

2種を除いて飼育技術が確立されつつある。

# 【東京都動物園協会】

・2017年9月より、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園、 恩賜上野動物公園、多摩動物公園でカタマイマイ属の 飼育を開始。

カタマイマイ: 葛西臨海水族園、井の頭自然文化園 アナカタマイマイ: 恩賜上野動物公園、多摩動物公園、

葛西臨海水族園

・今年度から各園で飼育個体の展示等を開始。

# 2-7 陸産貝類の保全状況(兄島)~ネズミ対策の状況~

兄島の陸産貝類の絶滅回避と個体群維持、回復を目的に外来ネズミ対策を実施。

### クマネズミ

固有の陸産貝類を食害するなどして 生態系に被害を与えている

### 対策の経緯

2010.2 ヘリによる殺鼠剤散布

2012.6~ センサーカメラによるモニタリング

2012.9 クマネズミ再確認

2015.2~ 保全エリアを選定しカゴ罠での捕獲

2015.8~ カゴ罠からベイトステーション(BS)

を用いた駆除に切替え

2016.8 ヘリ等による殺鼠剤散布

(兄島、瓢箪島、人丸島)

2017.7 クマネズミを再確認

2018.4~ 重要保全エリアを追加拡張し、BSを増

設し、対策を強化

2020.5~ 高床式BSに切替を開始

2021.3 内陸部でヘリによる殺鼠剤散布

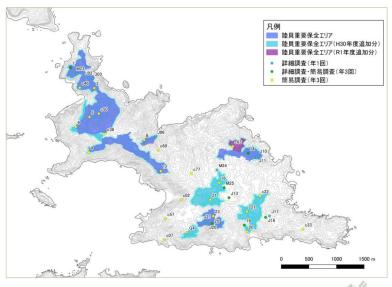
2021.5 クマネズミを再確認

2022.2 重要保全エリアを追加拡張



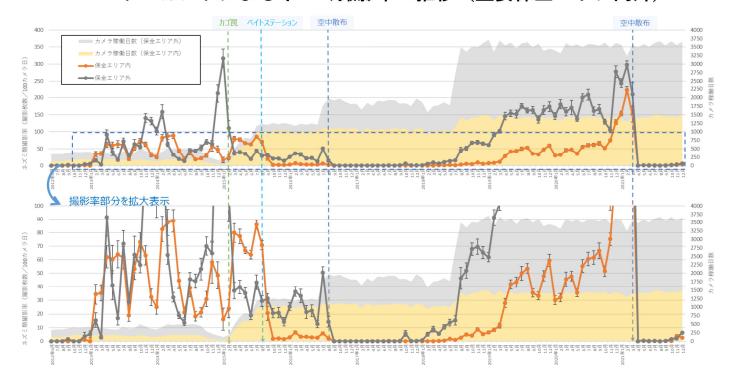
(左写真) クマネズミより食害を受けた カタマイマイ属の殻

(右写真) オカヤドカリなどの侵入を防 ぐための高床式ベイトステー ション



2021年度に重要保全エリアを拡張し、BS100基を増設(地図には未反映)。

# センサーカメラによるネズミ撮影率の推移(重要保全エリア内外)



- ・空散により全島的に低密度化に成功。
- ・空散を行わなかった海岸部等から内陸部に向けてネズミ撮影率が再度上昇し始めている傾向が見られる。

# 2-7 陸産貝類の保全状況(母島)~生息状況調査~

(環)



母島に生息する固有陸産貝類

左上より、ヒメカタマイマイ、オトメカタマイマイ、ピシカタマイマイ、テンスジオカモノアラガイ、JVヴョシワラヤマキサゴ、オガサワラオカモノアラガイ、オガサワラベッコウ、スペスペヤマキサゴ、イオウジマノジガ、オニンキビ、JVIらマヒメベッコウ、コガネカタマイマイ、スノメカタマイマイ

# 【調査、保全の経緯】

母島には多くの固有陸産貝類が現存している がニューギニアヤリガタリクウズムシ以外の貝食 性プラナリア、ネズミ等による捕食影響が懸念。

・2014年~ 母島全島における陸産貝類モニタリング(年1回)

・2015年 南崎地域でツヤオオズアリによるノ ミガイ類の急減を確認。翌年より駆

2017年 母島、向島でのモニタリング

除を開始。

2018年 母島、妹島、姪島でのモニタリング

2019年 母島、姉島、平島でのモニタリング

·2020年 母島、向島でのモニタリング

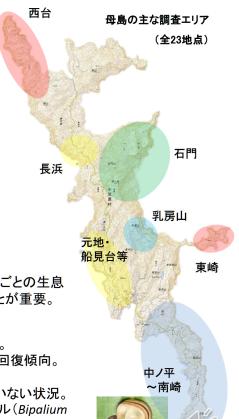
2021年 母島、妹島、姪島でのモニタリング

### 【調査結果概要】

母島の陸産貝類は、小笠原の他の島に比べ、年ごとの生息密度の増減が著しく、複数年の傾向で判断することが重要。

(2021年調査結果を含む近年の傾向)

- ・西台、東崎、南崎のカタマイマイ属は比較的良好。
- ・石門や乳房山ではテンスジオカモノアラガイ属で回復傾向。
- 一部の樹上性種では確認できない種がある。
- ・ノミガイ類は西台、東崎、南崎以外で確認できていない状況。
- ・樹上性種の減少については、エリマキコウガイビル(Bipalium vagum)の食害による影響の可能性が高いことが示唆され、
  - 一部の種で生息域外保全のための試験飼育や移殖試験を開始。



# 2-7 陸産貝類の保全状況(母島)~新たな外来種防除対策~(環・都・村)

# アジアベッコウマイマイ

- ・2016年10月に母島で確認(父島では未確認)
- ・分布調査により評議平周辺で高密度生息域を確認
- ・土付き苗に紛れて侵入したと考えられる
- ・ 在来陸貝との競合、農作物への被害が懸念



# 主な対策

2016年 高密度生息範囲(2.4ha)に駆除剤散布

2017年 分布調査により残存個体を確認

推定生息範囲(2.6ha)に2回駆除剤散布

2018年 分布の拡大を確認(約11.1ha)

8.7haに駆除剤散布

2019年 分布の拡大を確認(約<mark>20.1ha</mark>)

12.6haに駆除剤散布

2020年 分布の拡大を確認(約33.3ha)

8.7haに駆除剤散布

元地集落への跳躍分散を確認

2021年 分布の拡大を確認(約63.6ha)

評議平5.5haに3回駆除剤散布

乳房山遊歩道周辺7haで駆除剤散布

元地集落で大発生

→ 誘引罠による駆除を試行

中ノ平草木置場への跳躍分散を確認

→ 駆除剤散布を試行



# 2-8 ツヤオオズアリ防除対策の状況

(環・林・都・村)

# ツヤオオズアリ 父島及び母島に分布

〇2015年3月~: 母島における分布調査(環境省、東京都、小笠原環境計画研究所)

集落地では広範囲に分布、それ以外では局所的 に分布

○2015年6月:母島・南崎におけるモニタリング調査 (東北大)

ツヤオオズアリ侵入エリアでは、これまで多数確認されていたノミガイ類が極端に少なく、捕食された可能性が高い。

- ○2016年8月:これまで未調査のルートなどにおいて 首都大学東京が分布調査を実施
- →「新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題 WG」の下に設置した「ツヤオオズアリ作業部会」に て対策を検討。
- ○母島の南崎(環境省、2016.3~)、北港(東京都、2015.10~)、蝙蝠谷農業団地等※(小笠原村、2018.4~)及び父島の宮之浜(各機関協働→東京都)で、ベイト剤による対策事業を実施。乳房山の第2東屋周辺、蝙蝠谷農業団地等※は防除完了。
- ○2021年度の対策状況:

南崎:生息範囲を狭めることに成功している

北港:生息域の局所化に成功。根絶まであと一歩

農地等:中ノ平~鍋弦山(緑枠)にて分布調査



母島の南崎におけるツヤオオズアリの分布 域で、ノミガイ類(微小な陸産貝類)が激減

ベイト剤による防除対策により、 ツヤオオズアリの生息範囲を縮 小させることに成功している。

# 【これまでの対策の経緯】

•2015年2月

南崎においてツヤオオズアリの生息が確認。

•2016年3月

生息範囲を特定。本格的な防除を開始。

•2018年

対策エリアの一部で駆除達成<sup>®</sup>。対策の方針を拡散 防止から生息範囲の縮小へ転換。

※駆除完了モニタリングによる非検出が8ヶ月~12ヶ月継続

•2019年10月

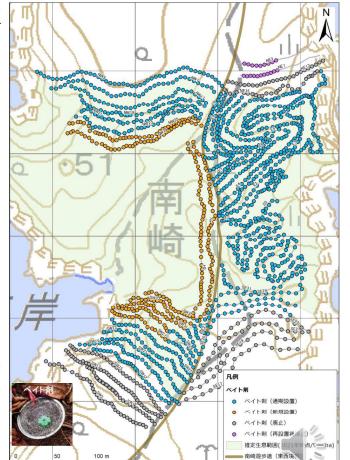
駆除完了エリアの一部で再検出。

•2021年

2019年再検出地点で再度駆除完了判断。一部の対策エリアで新たに駆除達成、生息範囲をさらに縮小。

# 【課題】

- ・さらなる生息範囲の縮小。
- ・急傾斜地等の対策困難箇所からの再侵入防除。



推定生息範囲及びベイト剤設置箇所(令和4年1月時点)

# 2-8 ツヤオオズアリ防除対策の状況【母島・農地、集落地】

(村)

# 進捗状況

# <対策の概要>

- 〇見廻山農業団地、JA出荷場、蝙蝠谷農業団地において、平成29年度からベイト剤設置による対策を実施し、令和2年度に防除完了を達成(以降は、年2回のモニタリングを実施)
- 〇令和3年度は、対策の 緊急性が高いと考えられる 新たな対策場所を検討す るため、中ノ平〜鍋弦山 (右図参照)において、 広域及び詳細な分布調査 を実施

# 

# 本取組の目的

◆既に定着が確認されている母島の 農地や集落での対策を行い、遺産 地域への新たな拡散を防止

# これまでの経緯

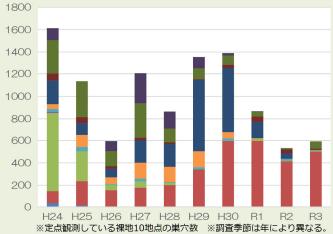
◆平成29年度 事業開始

# 課題・今後の対応

- ◆防除作業の継続
- ◆防除完了箇所のモニタリング
- ◆村民(特に農業者)への普及啓発

# 生息域内での取り組み

# • 生息状況調査



- ・野生個体の確保 遺伝的多様性の維持や 飼育による近交弱勢を 避けるため、野生個体 を捕獲。
- ・生息環境の整備 巣穴近くの外来植物駆 除や、落葉、落枝の除 去などを実施。





# 生息域外保全、再導入の取り組み

- ・専門家による技術開発を経て、内地の昆虫館から小笠 原世界遺産センターへ飼育技術が移転され、現在は技 術向上や給餌手法の工夫等により安定的な飼育数を維 持できている。
- ・ハンミョウが見られなくなった兄島の生息地に飼育個 体を放す取組が2015年度から開始され、放した個体 の移動や定着状況をモニタリングして確認している。
  - →2021年度は194個体を再導入(12月末時点)。 バタフライケージを使用した新手法や幼虫の再導入 も試行中。
  - →今年度は野生個体4匹(2ペア)を確保。 野牛個体由来の幼虫や父島飼育個体の一部を内地施
- ・近年の兄島の野生個体群の減少を受けて、兄島以外の 地域への将来的な再導入や保全的導入なども検討中。

	再導入個体数			
年度	父島	内地 施設	計	
H27	-	28	28	
H28	19	22	41	
H29	162	18	180	
H30	15	-	15	
R1	157	24	181	
R2	128	-	128	
R3	194	-	194	



# 2021年度の兄島のアノール防除対策の概要

(環)

- 保全対象である在来昆虫のモニタリングを実施
- グリーンアノール防除(探索、捕獲、遮断)を実施
- ・防除対策による生態系影響評価、防除技術開発を実施
- Aライン 柵北アノール確認地点(4~9月)
- Bライン 柵北アノール確認地点(10月)
- 重点捕獲エリア 2021年度広域センサス 稼働トラップ
- Cライン 柵北アノール確認地点(11月)
  - 柵北アノール確認地点(12月)

# ◆Cライン柵

- ・昆虫生息地を保全する 防衛ライン。
- ・ 弟島への侵入リスク低 減のための柵を管理。

# ◆Bライン柵

- 南部個体群の拡散防止柵と して管理。
- ・柵南北の生息密度勾配を維 持している。
- 全線で台風被害等からの復 旧・補強を継続している。

### ◆探索

- Bライン柵とCライン柵の間の地域、 Bライン柵の北側、属島(弟島、東 島)で広域探索を実施。
- →Bライン柵の北側で初めて、大きな 個体群が発見された。
- ドローンによる探索。

# ◆捕獲

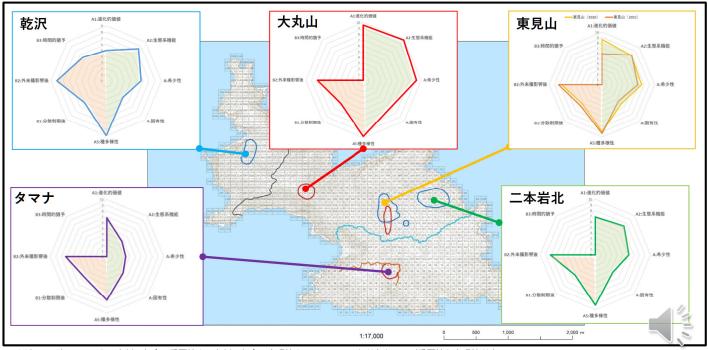
主にBライン南部で約6万個の粘着ト ラップを設置して捕獲を行っている。



◆Aライン柵

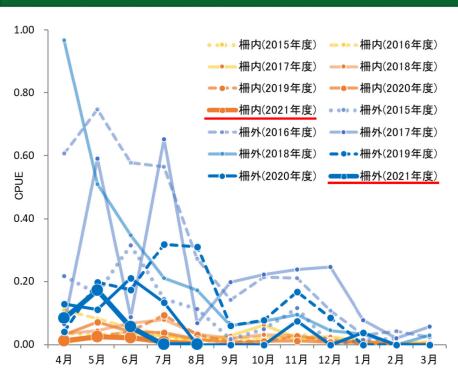
アノール防除初期に拡散防止のた め設置されたが、2019年の全原 で倒壊。2021年度に撤去。

- 兄島では防除柵と粘着トラップを組み合わせた対策を続けてきたため、侵入から8年が経過した<u>現在も島内でアノールがまん延する状況には至っていない</u>。
- しかし、アノールの根絶手法はまだ開発途上で、アノールの侵入域は少しずつ広がっている。
- ・在来昆虫類の保全のためには、<u>拠点防衛など中長期的な対策への転換</u>が求められていることから、兄島の代表 地点で昆虫調査を行い、各地域の評価を試みた。
- 調査の結果、<u>大丸山地域の保全優先度が最も高い</u>と考えられたため、具体的に保全対策を検討する。母島新夕日ヶ丘で実績のある、囲い込み型防除柵の設置と粘着トラップを組み合わせた手法などが考えられる。



※各レーダーチャートの右側は保全の重要性を、左側は保全の実現性を示し、チャートが大きいほど重要性と実現性が高い。
※レーダーチャートの左上は、アノールの分布距離からみた時間的猶予を示すが、2021年の当該地域周辺でのアノール検出により数値が0となった。

# 2-10 母島のグリーンアノール対策(母島新タ日ヶ丘)(環





- 囲い込み型防除柵内では引き続きアノールの低密度状態を保っている。
- 年間CPUE(100トラップ日あたりのアノール捕獲数)は非常に低い値(0.01)を記録し、CPUEの今年度最高値も0.02に抑えられた。
- 2021年度も柵内外における草木の刈り払いや樹木の高所伐採を実施した。

# 東京都が管理するアノール防除柵(以下Cライン)について

今回更新

# 台風被害状況報告

防除柵の今年度4月の台風1号被害は5月上旬に補修が完了





- ・ ネット補修 5箇所
- ・防草シート補修 6箇所
- •堆積土砂除去 3箇所
- ・復旧作業 延べ7人工

※支柱の倒壊や防草シー トの紛失等、大きな被害 は確認なし。

# 維持管理状況報告

北端部土留柵の土砂を除去



# 実施内容

- ・毎月の定期点検の実施
- 台風等異常気象後の点検の実施
- ・必要に応じた補修作業による機能の維持





# これまでの経緯

H30.3 全長竣工

(総延長 約2,400m)

R1.10 台風により倒壊

台風被害箇所復旧

台風により異常発生 R4.4

台風被害箇所復旧 R4.5

# 今後の方針

引き続き、柵周辺環境の モニタリング及び柵の維 持補修管理を実施。

### 希少鳥獣類の保全状況~希少鳥類保護管理対策調査結果~ 2 - 11

(林)

### 目的

母島列島におけるアカガシラカラスバト等の保護管理にむけた森林管理手法の検討資料とするため

- 学術研究報告や各種事業などの文献収集・整理を実施。
- 生息・繁殖状況の調査を実施(生態観察、センサーカメラ、標識調査)

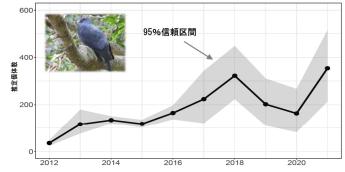
# 調査結果

# ◆アカガシラカラスバト

2019年の台風21号の影響によるエサ不足が 一因となり推定個体数は2年連続で減少傾向 となっていたが、今年度は観察数は横ばいと なっており、個体数の増減は下げ止まり~増 加傾向の状況と考えられる。一方、石門地区 ではノネコが継続して確認されているため、ノ ネコ対策を継続することが重要となっている。

# **◆**オガサワラカワラヒワ

2019年の台風21号の影響は危惧された状態 ほどではなく、今年度のセンサーカメラ調査で は若鳥も撮影されており、一定数の繁殖は成 功していると考えられる。しかし、各調査におけ る観察数からは絶滅可能性が非常に高い状態 のままと推測され、保全にかかる各種取組を集 中して実施することが重要となっている。



母島におけるアカガシラカラスバト推定個体数の推移



母島におけるオガサワラカワラヒワの観察数の推移

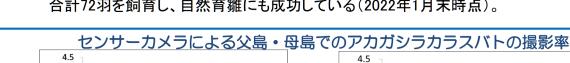
【目標】:自然状態で安定的に存続できる状態にすること

【取組み】:第4次中期実施計画等に基づき、関係機関が足環装着や 目撃情報の収集、生息・繁殖状況の調査、生息環境の改善、 域外保全等を実施。

(足環を装着した個体)

【成果等】:個体数は増加。ただし、まだ個体群が安定している状態とは言えない状況。 域外保全として3園(恩賜上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園)で

合計72羽を飼育し、自然育雛にも成功している(2022年1月末時点)。







### オガサワラカワラヒワの保全状況 ~域内保全~ 2 - 11

(環・村)

### 取組状況

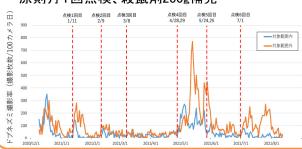
危機的な状況にあるオガサワラカワラヒワの保全のため保護増殖事業検 討会を実施し、保護増殖事業実施計画を策定。また、主な繁殖地である向島 においてドブネズミ駆除を実施。

# <対策の見直し>

- •R3年6月までの対策の結果、保全対象種の繁殖 シーズンにドブネズミの増加を抑制できず(下図)
- ・駆除計画を見直し、R3年12月から対策規模を ほぼ向島全域に拡大
- ※エリア拡充に伴うBS設置は小笠原村が実施

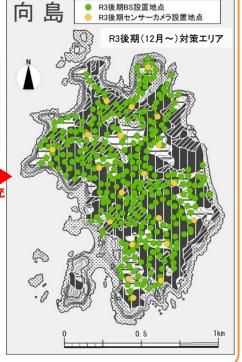
# 【対策拡充後】

- ·対策範囲:約96ha(向島全体の約70%)
- •BS設置台数:320台 •カメラ設置台数:20台
- ·原則月1回点検、殺鼠剤200g補充





殺鼠剤粒



# 課題・今後の対応

# 【より効率的な保全対策の検討】

- ・BSによらない全島的な殺鼠剤散布の検討 → 保全対象種の殺鼠剤感受性分析、ネズミの島間移動等知見の以集
- ・繁殖成功率向上のための検討 → オガヒワ営巣木へのドブネズミの登攀防止対策、人工水場や餌場の創出
- ・飛来地(母島)の保全 → ノネコ対策

# 今回更新

# 取組状況

オガサワラカワラヒワ5羽捕獲、4羽選抜、生息域外飼育開始 ⇒ 繁殖には至っていない(R4,5末現在)





#1 若鳥♀ #3 成鳥み 9/23AM捕獲 9/23PM捕獲

9/23 母島捕獲状況

9/23 初期飼育 (餌付け) 成功

ペア飼育



#4 若鳥♀ 9/23PM捕獲

ペア飼育

# OR4実施予定項目

- ・繁殖を目指した継続飼育
- ・メジロを活用し、向島⇒母島移送試験
- ファウンダー捕獲(繁殖状況次第)
- 母島保護増殖施設設計





陸上移送ルート



カヤック移送イメージ

# 本取組の目的

生息域外保全とし て、繁殖地の対策 と連携し、生息域 外での増殖を実現 し、生息域内個体 群の増強に貢献す る。

# これまでの経緯

- R3,4 オガサワラカワラヒワ保護増殖事業計画策定(国) R3,7 東京都版オガサワラカワラヒワ保護増事業認定
- (都動物園と連携した小笠原での生息域外保全)
- R3,9 捕獲、飼育開始
- R3.10 個別飼育 → ペアリング開始 全個体、健康状態良好(令和4年5月末現在)

# 課題・今後の対応

保護増殖検討会で策定する保護 増殖事業実施計画に基づき、関 係機関や都動物園と連携し、繁 殖の実現、増殖を成功させ、母 島列島での生息域内個体群の増 強に資するべく、多くの繁殖個 体の野生復帰に繋げていく。

### オガサワラオオコウモリによる食害対策 2 - 11

(村)

### 本取組の目的

オオコウモリによる食害を防ぐため農業者等が自ら設置して いる防鳥ネット等への絡まり事故を防止するため、オオコウモリ の安全性を確保できる硬質樹脂性ネット(トリカルネット)を使用 した施設等を普及する。

→食害対策による農業振興とオオ コウモリ保全を両立することにより、 人とオオコウモリが持続的に共存 できる環境を創る。

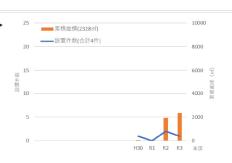
# 施設設置実績

今回更新

<父島>



<島母>



# これまでの経緯

- ・平成24年度 オオコウモリ食害対策事業開始
- 平成26年度 父島における食害対策需要調査実施
- ·平成29年度 食害対策事業検討委員会設置(以降、毎年開催)
- 平成30年度 母島における食害対策需要調査実施
- ・令和元年度 防風ネット等を使用した新仕様施設の試験設置
- •令和2年度 フルーツツリーネット等による防除策の試験設置

# 進捗状況

- ・令和元年8月頃、母島におけるオオコウモリの生息数が急増した ため、農家との意見交換を実施し、母島の大規模農地に対応する 防除策を検討(以降、意見交換会を毎年実施)。
- →安全性を確保できる防風ネットを使用した施設の設置、普及を開 始。父島でも導入。
- →令和3年度末時点では、当初危惧していたレモン等への大規模 な食害は発生していない。

### 課題・今後の対応

- 施設の経年劣化や管理者の高齢化などに伴う施 設管理不足によるオオコウモリ侵入事故の発生。
- →施設管理状況の把握、点検の強化。 施設のメンテナンス、再設置の実施。
- ・より安価で簡便な防除策の普及。
- →フルーツツリーネット等による防除策の導入。

# <急父>

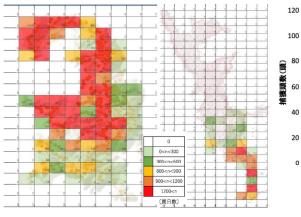
- 全島山域でのノネコの低密度化、完全排除を目指し捕獲を実施。
- 2014年以降、捕獲数がリバウンドしたため、2016年夏以降捕獲圧を増強 し続けている(対策を開始した2010年の28倍の罠日数)。
- ・リバウンドは2018年にピークアウトし、以降は低密度傾向。
- ・これまでの成果として、アカガシラカラスバトの生息状況が改善、南崎での 海鳥繁殖地の回復が見られる。

# <母島>

- 2016年夏まで全島で捕獲していたが、生息密度が低下しないこと、搬送 が停滞したことで一時飼養施設の収容力超えが常態化し、捕獲範囲を保全 対象種の生息地等が重なる南部地域に集中。
- ・2021年はオガサワラカワラヒワ保全強化のため、飛来地域全域(集落北縁 以南)に捕獲圧をかけ、前年よりノネコが低密度化した。

100

・南崎ではカツオドリやオナガミズナギドリの集団繁殖地が回復。



2021年の地域ごとの捕獲罠日数



捕獲ネコは東京都獣医師 会、小笠原海運、地域の 協力を得て、内地搬送、 馴化、希望する飼い主へ 引渡している。

これまでに995頭を搬送 (2022年2月末時点)

120000

100000

80000



2021年に母島南崎か ら巣立ったカツオドリ

### 新たな外来種の侵入・拡散防止のためのペットの適正飼養の推進 2-13 (村)

2010年 2011年 2012年 2013年 2013年 2015年 2016年 2017年

年別捕獲頭数および罠日数

母鳥捕獲頭数

■父島捕獲頭数 - 罠日数

### 本取組の目的

今回更新

◆ペットの適正飼養の推進により生態系への被害を未然に防止し、「人とペットと野生動物の共存」を目指す。

# これまでの経緯

- ◆2015年~ 「愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題WG」において制度・条例を検討し、 住民説明会、科学委員会、地域連絡会議等にて検討状況を説明・報告 2020年1月にパブコメ実施。
- ◆2016年11月 小笠原動物協議会の設立 翌年5月に動物対処室の運営開始 →ペットの適正飼養指導を強化。
- ◆2020年3月 小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例(ペット条例)制定。
- ◆2020年7月~ 村内の全世帯を対象としたペットの飼養状況調査を実施し、登録に繋げる。9割以上の回答率。

○登録動物の分類

未掲載種

◆2021年4月 ペット条例の施行。ペット飼養登録開始。

# 進捗状況

- ◆5月末現在登録世帯数 157世帯(全世帯1498世帯) (父:130世帯 母:27世帯 登録動物:右図参照)
- ◆2021年11月 条例の施行、運用に関わる助言を得る ための審議会を設置。村から犬の繁殖を防止するた めの措置等について諮問し、現在審議中。

### 【逸走等の事例】

- ・避妊手術未施術のネコの逸走(2021年6月)
- →飼い主への指導・書面による是正勧告。手術への同 意を得たが、ネコは戻っていない。
- ・ヘビの逸走(2011年5月、8月)
- →飼い主への防止策の指導・毎月1回の状況確認

### ヤモリ(トッケイヤモリ) 両生類:カエル(ニホンアマガエル、クラウンツノガエル) 内地から持ち込み イモリ(メキシコサラマンダー) 昆虫類:カブトムシ 甲殻類:エビ類(オパウエラ、レッドビーシュリンプ等) は虫類:カメ(チュウゴクセマルハコガメ、ミシシッピアカミミガメ、ワニガメ) ヤモリ(ヒョウモントカゲモドキ) 魚類:海水魚(フグ類、ハゼ類等) 在来種 淡水魚(オオウナギ、オガサワラヨシノボリ、チチブモドキ) 貝類:カワニナ類(オガサワラカワニナ;ヌノメカワニナを含む)等 小笠原に 生自•定差 は虫類:クサガメ 昆虫類:セイヨウミツバチ 外来種

掲載種 哺乳類:ネコ(ノネコ由来)、ヤギ(ノヤギ由来)

鳥 類:インコ類、鶏類

哺乳類:イヌ、ネコ、ハムスター、モルモット等

魚 類:熱帯魚(コリドラス、テトラ類、ベタ、メダカ、プレコ類等) は虫類:カメ(ニオイガメ類、リクガメ類、ゼニガメ、アカアシガメ等)

トカゲ(ゴールデンテグー、ヒガシウォータードラゴン等) ヘビ(ニシキヘビ類、モイラスネーク等)

### 課題・今後の対応

- ◆2021年度~:犬の繁殖を防止するための措置等について検討中。 動物対処室における犬の避妊去勢手術の実施を検討中。
- ◆2022年度以降:動物の持込み申告施行の検討。
- ◆2023年度以降:持込み申告施行を経て、ペットの持込み制限の施行を検討。

【凡例】 生態系被害防止外来種リスト 未掲載種

魚類:グッピー

# 進捗状況

# 今回更新

実施年	時期	実施形式	内容・テーマ
H24	秋•冬	ワークショップ	「村民生活」、「遺産価値の保全」(登録後に生じた地域の課題)
H25	冬	意見交換	「環境教育」、「観光関係」、「新たな外来種侵入防止対策」
H26	夏·冬	意見交換	オオコウモリ、ノネコ、ネズミなど暮らしと関わりの深い内容
H27	秋	ワークショップ	「遺産登録100年後の小笠原」、「動物と暮らすということ」
H28	春	発表•質疑応答	行政の取組を発表し、村民からはネズミ・アノール対策等の意見
H29	春	グループ ディスカッション	・行政の取組、ガラパゴス現地調査結果を紹介 ・「父島/母島列島PR作戦」をテーマとしたアイディア出し
H30	秋	ワークショップ	・行政、地元団体、研究者からの取組発表 ・父島/母島で大切にしたい・守りたい場所をマップ化
R1	夏	オガグワの集い	オガサワラグワについての行政、関係団体からの発表とワークショップ
R2~R3	随時	ヒアリング	・遺産に関わった人、登録時から住んでいる人等を対象に実施 ・ヒア結果→遺産登録10周年パンフレット・島内パネル展ほか
R4	秋(予定)	意見交換もしくは ワークショップ	・はは丸クルーズ(9/4母列、10/30父列)と連動した企画を検討中

# 本取組の目的

- ◆遺産登録後の観光・生活 の変化や遺産価値等に ついての意見交換
- ◆外来種対策などの具体的 取組に関する情報共有

# これまでの経緯

- ◆平成24年度に登録1 周年事業として開始
- ◆以降、毎年1~2回程 度、父島・母島でそれ ぞれ開催

# 課題・今後の対応

- ◆各機関が連携して取組を継続
- ◆遺産の親近化、目的の明確化
- ◆裾の広い村民に参加してもらえ るようテーマや実施方法、呼び かけ方法を工夫

# 2-15 住民参加・普及啓発等~村民向け企画~

(環・林・都・村)

今回更新

# 進捗状況

ははじま丸による父島列島・母島列島周遊クルーズ(国立公園指定50周年)

# しまじまつつうらうら (仮称)

【目的】

村民が普段見ることのできない無人島の自然環境と保全対策の状況を、ははじま丸により海上から見てもらい、体力的に現場に行くことが難しい人はじめ老若男女幅広い人向けに伝えることで、遺産管理のための取組への理解を促す。クルーズを撮影・編集し、テレビ放送・ネット配信することで普及啓発のすそ野を、より広げることも図る。

母島列島 9月4日(日:入港翌) 8時半~11時半 父島列島 10月30日(日:出港翌) 8時半~11時半

・招聘講師:川上和人先生(母列) 父列は未定

゚・管理機関による取組解説

- 島ごとの解説付きのハンドブックの作成
- 船内パネル展
- •村民を巻き込んだメニューを検討中

# 本取組の目的

◆村民に小笠原の 自然に対する興味 を深めてもらうと ともに世界遺産の 課題を共有する

# これまでの経緯

- ◆平成13年度から村民ボランティアや 視察会を南島、西島、兄島等で実施
- ◆令和2~3年度は現地イベントの代わりに登録10周年企画(パンフ、写真立て、番組、島内パネル展)を実施

# 課題・今後の対応

- ◆各機関が連携して取組 を継続
- ◆裾の広い村民に参加してもらえるようメニュー や実施場所を工夫



今回追加

具体的な検討及び

結果の報告

# 目的

小笠原諸島における自然環境保全促進地域(南島及び母島石門一帯)を対象として「適正な利用の ルール等に関する協定書」について、施行開始から現在に至る経緯と現状を踏まえ、東京都と小笠原村 が協議、検討のうえ、必要に応じて改定案を取りまとめる

### 概要

# ■所掌事務

- 1 適正な利用のルールの変更に関する検討
- 2 東京都と小笠原村との役割分担の変更に関する検討
- 3 その他必要な事項に関すること

# ■会議

- ・協議会は東京都、小笠原村双方の職員からなる委員等により構成
- ・協議会の下部会として作業部会を設置
- ・作業部会は協議会から指示された事項について具体的な検討を行い、 その結果を協議会に報告する



令和4年3月23日から「適正な利用のルール等に関する協定書」の変更締結日まで



R4.3.29 第1回適正な利用のルール等検討協議会

R4.5.13 第1回作業部会

R4.6.16 第2回適正な利用のルール等検討協議会

# 今後の予定

適正な利用のルール適用開始から現在に至る経緯 と成果を踏まえ、今後の南島、石門のエコツーリ ズムの適正な利用のルール等について検討する。

案の取りまとめ

協議会

作業部会

指示

地元説明

以上で動画は終了です。
ご視聴ありがとうございました。